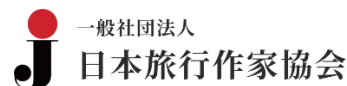


2025 年 7 月 22 日



報道関係各位

2025 年 7 月 22 日

第 11 回「斎藤茂太 旅の文学賞」 授賞式のお知らせ

一般社団法人 日本旅行作家協会 会長 下重暁子
斎藤茂太 旅の文学賞実行委員会 委員長 市岡正朗

旅に関する著作を表彰する第 11 回「斎藤茂太 旅の文学賞」受賞作が、上田大作『明日も、森のどこかで』（閑人堂）に決定し、授賞式を 2026 年 7 月 29 日（水）18 時 30 分から、千代田区内幸町の日本プレスセンター内レストラン・アラスカで行います。

「斎藤茂太 旅の文学賞」は、一般社団法人日本旅行作家協会（下重暁子会長）が主催し、長年にわたり世界と日本の旅行文化の発展に貢献した当協会創立会長の故・斎藤茂太氏の功績をたたえ、その志を引き継ぐため 2016 年に「斎藤茂太賞」として創設されました。節目となる第 10 回目を迎えた 2025 年より、賞の名称を「斎藤茂太 旅の文学賞」へと改称。今回が第 11 回目となり、2025 年に発表された紀行文、エッセイ、ノンフィクションのジャンルを対象として選出しました。

「斎藤茂太 旅の文学賞」の正賞は「クリスタルトロフィー」。副賞は「30 万円」。当日は著者のほか、最終選考委員各氏、斎藤茂太氏のご長男である斎藤茂一夫妻もご出席します。

また、この授賞式で、旅の優れた書籍を顕彰する「旅の良書」を併せて紹介します。「旅

の良書」は、基本的に中学生以上を対象として、旅のさまざまな魅力を読者に伝える優れた書籍を選出します。斎藤茂太 旅の文学賞の選考過程でセレクトしたすべての作品を対象として、斎藤茂太 旅の文学賞の選考システムを活用して同実行委員会が選考・選出し、日本旅行作家協会の理事会の承認を経て認定するものです。今年が第8回目の発表となります。日本旅行作家協会選定の「旅の良書」マークを、選ばれた「旅の良書」の出版元へ無償で提供します。

[第11回「斎藤茂太 旅の文学賞」最終候補作]

■『フォルモサ南方奇譚』倉本知明（春秋社）

■『中国 TikTok 民俗学 スマホからはじまる珍神探訪』大谷亨（NHK出版）

■『明日も、森のどこかで』上田大作（閑人堂）

[最終選考委員]

下重暁子（作家・日本旅行作家協会会長）

椎名誠（作家・日本旅行作家協会副会長）

大岡玲（作家・東京経済大教授）

芦原伸（ノンフィクション作家・日本旅行作家協会副会長）

[第11回「斎藤茂太 旅の文学賞」受賞作]

『明日も、森のどこかで』上田大作（閑人堂）

[総評]

最終選考委員 下重 暁子（作家・日本旅行作家協会会長）

第十一回を迎えて、今回の選考がもっとも難しかったとも言えます。最終選考に残った「明日も、森のどこかで」「フォルモサ南方奇譚」「中国 Tik Tok 民俗学 スマホからはじまる珍神探訪」の3冊とも大変な労作でした。

私の大事にしている井上ひさしの有名な言葉に、

「むずかしいことをやさしく、やさしいことをあくまでもゆかいにふかく、ふかいことを

おもしろく、おもしろいことをまじめに、まじめなことをゆかいに、そしてゆかいなことはあくまでもゆかいに」

が、ありますが、その観点から言えば「フェルモサ南方奇譚」は台湾の日本との関係や時代背景がよく書けているし、「中国 TikTok 民俗学」は目のつけどころが現代的であるところに惹かれますが、研究書のようなところもあって読むのに少し苦勞がいたり、やや自己満足的で読者に寄り添うという点に欠けたりするところがある印象です。その点では、「明日も、森のどこかで」はやさしくて、伝わりやすい。年間 250 日近く北海道で暮らして 20 年間、じっくり自然と向き合ってきて人生そのものをかけた感動が伝わってきます。写真はいうまでもなく素晴らしいですが、文章もディテールが細やかで繊細でありながら素直で分かりやすい。作者自身を書き込んであればさらによかったと思います。

というようなことで、受賞作は「明日も、森のどこかで」に決まりました。

今回の候補作は読んで、フィールドワークともいえる著作が多く、「斎藤茂太 旅の文学賞」とはいったい何だろう、どこを目指していくべきなのかなど、あらためて考えさせられたことも今回の最終選考会の一つの成果だったかもしれません。

[上田大作氏プロフィール]

1977 年、山口県下関市生まれ。会社員を経て 2006 年から独学で写真を撮りはじめる。北海道の道東地域や大雪山国立公園を主なフィールドとして、年間 250 日近くキャンピングカーやテントで生活しながら現在まで撮影を続ける。2013 年、冬の風蓮湖取材した作品で田淵行男賞を受賞。2021 年、動物カメラマンとして『情熱大陸』（毎日放送）に出演。近年は海外のプロダクションが制作する野生動物のドキュメンタリー番組に携わるなど、映像の世界にも活動の場を広げている。

[第 8 回「旅の良書」] (順不同)

- 『フェルモサ南方奇譚』倉本知明（春秋社）
- 『中国 TikTok 民俗学 スマホからはじまる珍神探訪』大谷亨（NHK出版）
- 『ローカル鉄道と路線バスでめぐる 果てしなきイタリア旅』二村高史（草思社）
- 『台湾クラフトへの旅』平野久美子（小学館）
- 『オーロラの下、北極で働く』松下隼士（雷鳥社）
- 『雪豹の大地 スピティ、冬に生きる』山本高樹（雷鳥社）

- 『ヨルダンの本屋に住んでみた』フウ（産業編集センター）
- 『シシになる。 遠野異界探訪記』富川岳（亜紀書房）
- 『ぼくの学校は世界中』雲野秀美（リチェンジ）
- 『道一天職に巡り合うまで』富井道子（展望社）
- 『東欧センチメンタル・トリップ』イスクラ（草思社）

本報道資料のお問い合わせ先・取材申し込み先

日本旅行作家協会 担当：盛武

電話：03-3538-2345 e-mail：secretariat@jtwo.net

斎藤茂太 旅の文学賞

斎藤茂太 旅の文学賞ロゴ



第8回旅の良書マーク

「旅の良書マーク」基本形サンプル 2026 年版



2cm サイズ

カラー版



2cm サイズ

特色 2 色版



2cm サイズ

1 色版



一般社団法人 日本旅行作家協会

第 8 回旅の良書マーク 基本形サンプル